

社会福祉と社会開発の方法論の融合への試み

～ 1960 年代における議論の再検討 ～

日本福祉大学大学院 倉持香苗

(会員番号 05372)

key words 社会福祉, 社会開発, 国際福祉, 1960 年代,

. はじめに

国際化時代における社会福祉実践や方法論が問われている。現代における地域課題は国際化, 過疎・過密, 地域格差など, もはや行政だけでは解決困難な状況にある。地域課題を解決するには他領域との連携, 協働が不可欠であり, それは地域を基盤とする住民の持続的な活動を展開する手がかりとなるのではないかと考えられる。

経済開発から人間開発へと変化した社会開発と, 福祉サービスの受益者から利用者主体へと変化した社会福祉は, どちらも, 地域を基盤とした住民の主体的な活動が重視されている。社会開発と社会福祉に着目することは決して新しい試みではなく, 実は 1960 年代から 1970 年代にかけて, わが国で広く議論されていた。

国際化が進展している現代とは異なる時代に, 何故, 社会福祉と社会開発が着目されたのだろうか。その背景と当時の議論を振り返り整理しながら, 改めてその意義を問いたい。

. 研究の目的と方法

1960 年代の文献と論文を収集し, それらを整理しながら以下の点について考察をおこなった。

1960 年代当時, 社会福祉に社会開発の考え方を導入しようと試みられた経緯とその展開を整理する。

現在改めて社会開発に着目する意義を明確にする。

. 分析の枠組み

1960 年代の「社会開発」(佐藤内閣)議論

各分野における社会開発の捉え方の違い

社会福祉における社会開発議論(導入の試み)

. 社会開発をめぐる～社会福祉に与えた影響～

社会開発の発展～先進国における社会開発とは～

国による捉え方の違いと, 注目された点

1960 年代におけるわが国の社会状況と社会開発

高度経済成長と「ひずみ是正」…佐藤内閣が目指した社会開発とは

コミュニティ・デベロプメントとコミュニティ・オーガニゼーション

社会福祉分野における社会開発をめぐる議論

. 結論

ひずみ是正と社会開発

1960 年代は高度経済成長によるひずみ是正のために社会開発が注目されていたのではないだろうか。佐藤内閣により掲げられた社会開発が, ひずみ是正のための方策として期待されたものの, 社会開発が持つ事前予防的,

あるいは住民参加により地域を創るという特徴が十分に伝わらなかったのではないかと考えられる。

社会福祉における社会開発をめぐる議論～当時、何に注目していたのか～

先進国と後進国との違いから、当時中進国であったわが国に、社会開発の考え方がどう生かされるのかといった議論があった。また、当時社会福祉六法を中心に展開されていた社会福祉事業に対して、社会開発の総合性や予防性が重要視されていた。しかしこのような指摘がなされていながらも、わが国では社会指標の研究に流されていってしまったようである。当時「ひずみ是正のための社会開発」と言われながらも、経済偏重をぬぐいさっていなかったという回顧が、後になされており、コミュニティ・デベロップメントを発展させることは容易ではなかったのではないかと考えられる。

社会福祉領域で社会開発のアプローチに着目する今日の意義

以上の整理から、1960年代とは異なる現代において、社会福祉領域で社会開発に着目する意義を次のように考察した。まず1つめに、国際社会における、社会福祉の新しいアプローチの構築につながるのではないかとこの点である。国外の地域に関わる仕事やボランティアを経験した人が社会福祉を学ぶ例や、社会福祉を学んだ後、国外で働きたいという希望を持つ人も増加傾向にある。

この点を関連して2つめに、地域を創り出す住民の意識改革や態度の変容と、住民の主体的参加によって地域を創り出すという社会開発のアプローチが、一つの手がかりになるのではないかと考える。わが国においても、過疎・過密、地域格差など、もはや行政だけでは解決困難な状況にあり、地域を基盤とする活動が重視されている。社会開発においてもトップダウンからボトムアップへと、住民が持つ力に焦点を当てた活動が展開されていることから、社会福祉と社会開発の二つの視点は生かされるのではないかとと思われる。

最後に、今後ますます、国内外で活動する社会福祉の人材養成が課題になると考えられ、社会開発の領域が、社会福祉における地域を基盤とする活動の参考になるのではないかと考えられる。

・今後の課題

地域を基盤として活動を展開するわが国の活動において、社会開発の考え方がどのように生かせるのか、具体的な実践の積み重ねと検証が課題である。

* 本研究は、日本福祉大学 COE 奨励研究員としての研究の一部である。